Y05b　国立天文台「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」による地域再生計画

観山正見、渡部潤一、○縣秀彦、永井智哉、平井明、内藤誠一郎、伊東昌市、武田隆顕 (国立天文台)、三浦均（武蔵野美大)、高幣俊之（オリハルコンテクノロジーズ)、安藤幸央（エクサ)、ほか国立天文台宇宙映像利用による科学文化形成ユニット

自然科学研究機構国立天文台は、平成 19 年度、科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点形成」に採択され、地元三鷹市と連携し「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」を実施することになった。これに基づき、三鷹市は地域再生計画を内閣府に提出し受理され、学公協働による 5 年間の受託事業が今年度始まった。　本事業は、国立天文台が所有する 4 次元デジタル宇宙映像やすばる望遠鏡の画像等の研究資源を知財と捉え、他研究分野や映像文化において、次世代映像として活用する人材の養成を目的としている。国立天文台の技術と大学院生らの人材が付加価値の高い映像制作等の起業に結びつくことで、三鷹市が国際的な映像コンテンツ発信地域として、将来、映像祭や科学フェスティバルを実施するとともに、星のソムリエ等のボランティア養成も含め、天文学を中心とする科学文化の形成が、市民生活の質の向上、特に都市型少子高齢化社会の地域再生に貢献することをめざす。